

令和6年度 通常総会と意見交換会を開催しました

昨年5月、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が「5類感染症に位置づけ」され、3年間続いた行動制限や自粛などに一定の終止符が打たれました。ようやく、これまでの日常生活が戻り、久しぶりの集まりや宴会が復活。息を吹き返す思いのした1年となり、2回の見学会に講演会と、予定通りの活動ができました。

さて、今年度最初のイベントです。6月27日（木）「ホテル京阪天満橋駅前」1階のレストラン「葵」にて、34名の会員に参加をいただき、令和6年度通常総会と意見交換会を開催しました。総会では、令和5年度の事業報告、決算報告、令和6年度の役員選任（全員留任）、事業計画案、予算案などについて承認されました。また、今年度は、5名（岡野一郎さん、前田吉史さん、村上毅さん、吉村庄平さん、渡部恭三さん）の新入会員を迎えることができ、平成22年度以来、14年ぶりに会員数が50名を超え、総勢53名になりました。

引き続き、意見交換会と移り、時間の許す限り、料理と、ワイン、八海山、ビールなどで旧交を温めました。ご参加いただきました皆さん、ありがとうございました。

令和6年度 第1回見学会を開催しました

今回の見学会は、令和6年3月23日に開業しました北大阪急行線延伸（千里中央～箕面萱野：約2.5km）で生まれた2つの駅周辺のまちづくりを感じる企画です。

鉄道開業後の新駅周辺のまちの様子については、関西テレビタワーズの報道番組内「兵頭大樹の今昔さんぽ（8月2日放送）」のコーナーで、「あれを発明した人＜初恋の味…カルピス＞」と一緒に、「日経コンストラクション（7月号）」で、箕面船場阪大前駅の地下3階、地上2階建て、吹き抜け構造の「エントランス空間」の紹介、また、「鉄道ジャーナル（7月号）」で、「北大阪急行電鉄箕面延伸はこうして実現した」と題して、まちの歴史とともに、事業化に向けた奮闘など、様々な場面で紹介され、注目されているエリアになっています。

残暑が残る9月5日（木）定刻より10分早い、13時20分、参加者29名が、箕面萱野駅隣接の「みのおキューズモールWEST 2階」箕面市立みのお市民活動センターに集合。多目的室にて、北急延伸やまちづくりを担当している箕面市地域創造部北急まちづくり推進室の皆さんから、説明資料やパンフレットを用いて「北大阪急行線の延伸と関連まちづくり」についての説明を受けました。



北急延伸とまちづくりの概要説明と質疑応答です

◆まちづくりと公共交通

■箕面市立地適正化計画 ～ 北大阪急行線延伸の効果をまち全体へ！ ～

立地適正化計画は、持続可能な都市構造への再構築をめざし、人口減少社会に対応したコンパクトシティを実現するためのマスタープラン。平成28年、全国で初めて、立地適正化計画が箕面市で策定され、子供から高齢者まで健康的で豊かに暮らせるよう、まちづくりと公共交通を組み合わせた「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」のまちづくりをめざし、様々な取り組みが行われています。

都市の骨格となる公共交通軸を設定したうえで、居住誘導区域内は、区域内の住民の利便を図り、居住しやすい環境を整備する観点から、区域を通る公共交通軸（幹線）へのアクセス交通（支線）を確保することが重要となっています。また、誰もが公共交通によって、医療・福祉・商業等の様々な都市機能にアクセスできるよう、都市機能誘導区域は、駅やバスターミナルなどの拠点から徒歩圏に設定することが必要です。

この計画において、東西に市街地が広がっている南部居住誘導区域内では、阪急箕面線、大阪モノレール彩都線及び北大阪急行延伸線の3本の公共交通軸へのアクセス交通を確保することが重要となります。北急新駅が市街地の中央部にできることから、これを機に、バス路線を抜本的に再編し、3本の公共交通軸を結び東西ネットワークを構築することにしています。

■北大阪急行延伸事業の概要

○事業の概要

整備主体 箕面市および北大阪急行電鉄株式会社

運行主体 北大阪急行電鉄株式会社

総事業費 874億円（工事費811億円、車両費63億円）

（国382億円、府100億円、市282億円、北急110億円＜採算確保額＞）

建設延長 約 2.5 km

○主な経緯

昭和43（1968） 箕面市第1次総合計画に構想

昭和45（1970） 北大阪急行線の営業開始（江坂～万国博中央口）

平成元（1989） 運輸政策審議会答申第10号に位置づけ

平成16（2004） 近畿地方交通審議会答申第8号に位置づけ

「中長期的に望まれるネットワークを構成する新たな路線」

平成26（2014） 北急延伸に関する基本合意書の交換

（大阪府、箕面市、阪急電鉄、北大阪急行電鉄）

平成27（2015） 都市計画決定、軌道法特許取得、鉄道事業法許可取得

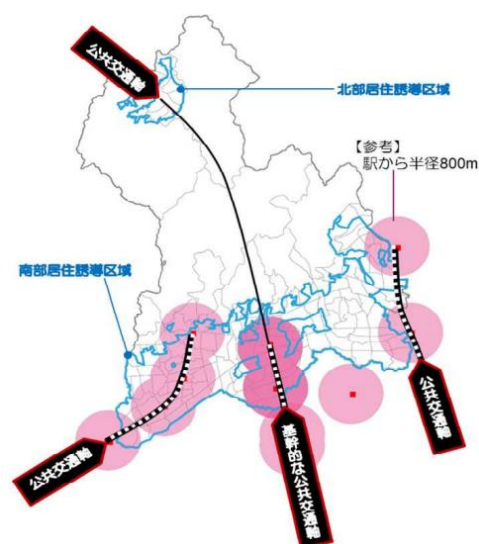
令和6（2024）3.23 千里中央～箕面船場阪大前～箕面萱野 開業

○需要予測と経済波及効果

需要予測：延伸線には、1日約45,000人が乗降すると見込む

経済波及効果：初期効果（地価上昇、延伸工事等）3,227億円

年間の効果（商業施設等の売り上げ等）614億円/年



箕面市の公共交通軸 ー箕面市提供ー



■バス路線の再編

これまで千里中央駅や北千里駅を中心としたバスルートが、北急延伸で新駅を中心にルートが再編。東西方向に乗り換えなしで移動できるなど、利便性が格段に向上。

路線バスの再編にあたっては、阪急バスの営業路線として成立する必要がある一方で、利用者にとってもわかりやすいものとする必要があります。そのため、路線ごとに評価基準（収支率に基づく1便あたりの利用者数）を設け、社会実験での評価を重ね、運行頻度や路線の見直しなど、検討が進められています。

また、コミュニティバス「オレンジゆするバス」の再編にあたっては、評価基準（収支率、1便あたりの利用者数）を設けた実証運行の評価と見直し検討を繰り返し、本格運行へ。また、分かりやすい運行情報の発信や、これまで利用が少なかった若者世代への働きかけなどによって利用促進が図られています。

多目的室での説明、質疑応答の後、「箕面萱野駅」へ

これまでのバス路線（イメージ）



再編後のバス路線（イメージ）



バス路線の再編 ー箕面市提供ー

◆現場見学

【箕面萱野駅周辺のまちづくり】

鉄道延伸に伴う新駅設置を想定して、土地区画整理事業（平成6～17年）で事前に都市基盤を整備（交通広場1ha確保）。さらに、地権者約50名の土地を交換分合、集約化、約5haの大街区に整備。商業施設（ヴィソラ「カルフル」→現 みのおキューズモール）を誘致し、平成15年「かやの中央」としてまちびらき。さらに、平成28年、新駅のアクセスを確保するため、都市計画道路を整備して、鉄道開業に先立って供用開始されました。現在、北摂最大級のショッピングモールとして年間1千万人の人出で賑わっています。

箕面萱野駅は2階がプラットホームの高架駅。上屋には、白い膜屋根素材を採用し、膜を通して拡散光を取り込む明るいプラットホーム。駅東の北側交通広場にバスターミナル、バスターミナルの上空には、立体都市計画制度を活用して整備された、飲食店舗や生活雑貨等のテナントからなる駅ビル（STATION棟）。鉄道高架下には、飲食などの店舗を誘致、また、バス乗り場に隣接して、人工芝でリニューアルした「かやの広場」など、新駅周辺の賑わいを創出しています。



「北側交通広場（バスターミナル）」と「駅ビル」



箕面萱野駅 1面2線 「明るいプラットホーム」



くつろげる人工芝の広場「かやの広場」



*左の写真は、6月初夏のときの様子（日陰に多くの人・・・）です

箕面萱野駅から北大阪急行で1駅「箕面船場阪大前駅」へ

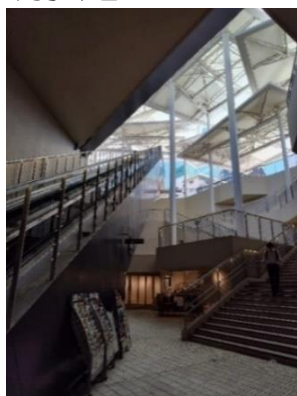
【箕面船場阪大前駅周辺まちづくり】

高度経済成長に沸いた1960年代、大阪船場地区では、倉庫不足や道路渋滞などが深刻化。これら物流問題を解決するため、繊維卸商が集団で移転する話が持ち上がりました。その移転先として、当時、大きく開発が進んでいた千里ニュータウンの北側に隣接し、大阪国際空港や新大阪駅にもアクセスのよい、この地が選ばれ、昭和45年、大阪船場繊維卸商団地「箕面船場」(73ha)が誕生しました。

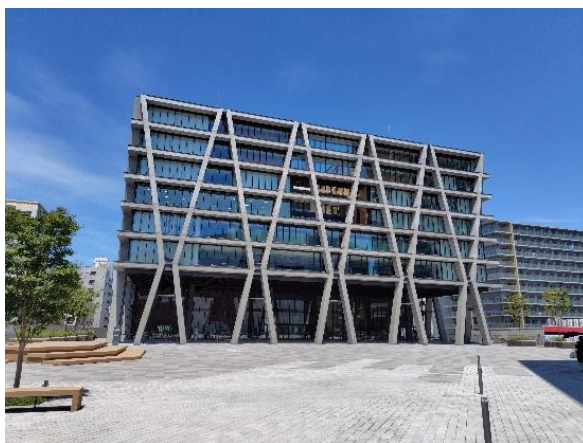
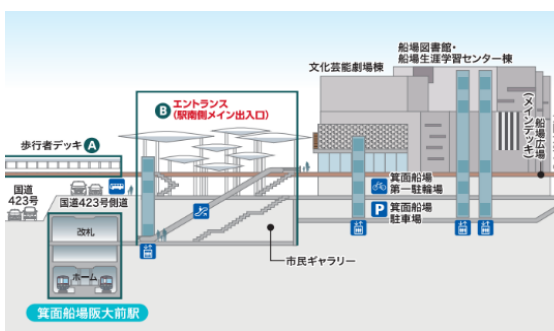
団地創設から約半世紀が経過、流通構造の変化等の影響を受け、ビルや倉庫等に空きが生じるなど、資源が十分活かされていなかったり、建物の老朽化が目立ってきました。そこで、北急延伸を契機とした新たなまちづくりとして、細分化されている敷地を有効高度利用するため、大街区化を図る再土地地区画整理事業(平成28～令和7年)が実施。

また、新たな交通拠点周辺への核施設を模索していたところ、大阪大学の教育研究の発展及び学習環境の向上と、箕面市の活気あるまちづくりを実現するため、箕面市郊外にあった旧大阪外国語大学キャンパスを、この新駅へ移転することに、大阪大学と箕面市で合意。移転に際しては、前身の大阪外国語大学の長い歴史と地域との交流を継承しつつ、広場やプロムナードなどパブリックスペースの在り方などの検討が重ねられ、大学のモットーである「地域に生き世界に伸びる」を具現化した、境界を消し、まちに開かれた箕面キャンパス(学生数3千人)が、令和3年4月、駅チカに誕生。繊維が織り込まれているような、また、人が手を繋いでいるような力強いアウトフレームブレースが特徴で、新しいまちの顔になっています。今日は前期休講中、後期が始まる10月、多くの学生達の賑わいに思いを馳せことができます。

箕面船場阪大前駅は、国道423号側道下に建設された地下駅(地下約20m)。ホーム階からエスカレーター(又は階段)で改札階へ、まだ地下です。ここから、地上2階の歩行者デッキへの動線が、日経コンストラクションで紹介された「エントランス空間」。空間全体を覆うように配置された8枚の膜屋根は、箕面市の道路施設。全方位から30度の角度で雨が吹き込んでもエスカレーターが濡れないよう、それぞれの屋根が配置されています。また、駅隣接街区では、民間事業者がタワーマンション(31階、728戸)建設中。



箕面船場阪大前駅
エントランス
高低差約16mの
大型エスカレーター



大阪大学箕面キャンパス 外国学研究講義棟
右奥に見える建物が学生寮(320名)



箕面船場阪大前駅「エントランス空間」8枚屋根の道路施設

駅周辺では、「文化芸能・国際交流拠点」「健康寿命の延伸・ヘルスケア拠点」として、産官学民連携のまちづくりが進められています。令和3年5月、図書館、生涯学習センター、劇場（大・小ホール）及び駐車場が一体となった複合公共施設と各施設を結ぶ歩行者デッキが、鉄道開業に先行してオープンしました。



箕面船場阪大前地区複合公共施設
 右手前に、文化芸能劇場
 右手奥に、船場図書館と船場生涯学習センター
 左手奥に、大阪大学箕面キャンパス



箕面市立文化芸能劇場の前で

箕面船場阪大前地区複合公共施設

＜PFI 官民連携手法の導入（BTO 方式）＞

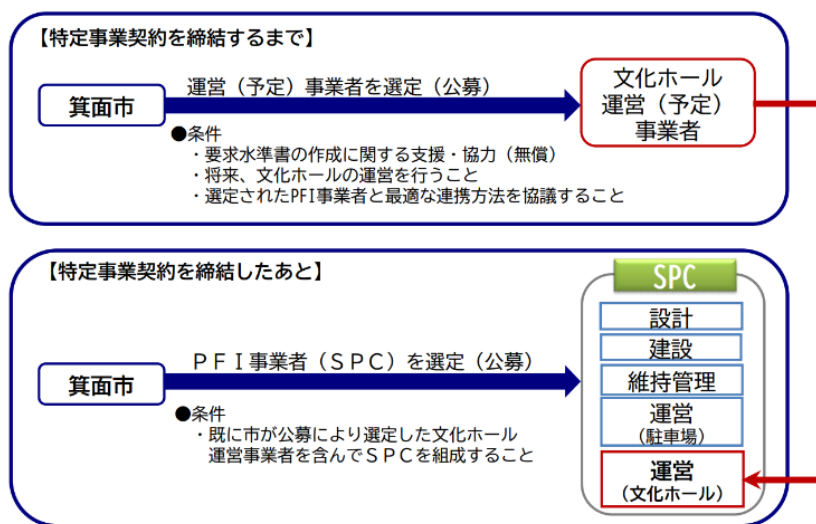
民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用することにより、国や地方公共団体等が直接実施するよりも効率的かつ効果的に公共サービスを提供できる事業について、PFI 手法で実施されています。今回の拠点整備においては、①VFMが生じる試算結果（約13.4%）となったこと、②公共サービス水準の向上の観点において、文化芸術の振興、都市ブランドの向上、賑わい創出を期待できることから、PFI 手法が選択されました。

PFI 手法の選択に際して、箕面市が感じた課題は、本事業がホールの利用料金収入で維持管理運営を賄う

「独立採算」を条件としており、それを実現できる「ホール運営事業者」は存在するものの非常に少数であることでした。そのため、非常に少数の「ホール運営事業者」の存在がクリティカルになって、PFI 事業者（SPC）を決めることになるため、競争性が低下すること、また、「整備」に関するグリップが弱くなることです。また、文化ホール運営に関するノウハウが十分でなく、コンサルタントが作成する要求水準書の良否や過不足を十分に判断できないという懸念がありました。

そこで、箕面市がとった解決策は、

「先に文化ホール運営（予定）事業者を抽出して選定し、その後に、一体のSPCを組成する」とするというものです。ホール運営事業者が使いやすい（採算性の取りやすい仕様にホールを仕上げるのかベストとの考え）施設を、一緒につくりあげるというスキームで事業化が図られました。文化ホール運営事業者は（株）キョードーファクトリー、施設整備事業者は大林組グループとした、PFI 事業（平成30～令和3年）が実施されました。生涯学習センターと図書館の運営・維持管理業務は、指定管理者として大阪大学が行っています。施設整備費（設計・建設）が137億円、維持管理・運営費が0円で、運営維持管理の期間については、複合公共施設の大規模改修（箕面市が負うリスク）の時期から、15年間（令和3年4月～令和18年3月）とされています。



PFI 事業のスキーム ー箕面市提供ー

＜公共施設の概要＞

文化芸能劇場には、様々なコンテンツに対応する多機能な大ホール（1401 席）と、市民が生涯学習活動の参加の場として活用する小ホール（300 席）、練習の場となるリハーサル室などが備えられています。大ホールの客席は、どの席からもステージが見やすいように「円弧配置」また、座席の高さを後方に従って段差が大きくなる「すり鉢状」の配置など、見やすさが追求されています。これもホール運営事業者と一緒に作りあげた成果です。

船場図書館には、大阪大学外国語図書館の蔵書 60 万冊を含む、約 71 万冊を所蔵。2 階が箕面市の蔵書スペースで子供たちがのびのび過ごせる「にぎやかエリア」を配置、3～4 階は大阪大学の蔵書スペースとなっています。静けさの中に、勉学中の学生の姿を見つけました。

船場図書館の階上、5～6 階の船場生涯学習センターには、会議室や多目的室、音楽スタジオの他、3×3 バスケットボールやフットサルができる野外運動場などの備え、幅広い世代が利用できる施設となっています。



箕面市立文化芸能劇場大ホールのステージ上で



参加者された皆さん ー文化芸能劇場大ホールのステージ上でー 紅葉を模した客席の椅子

◆終わりに

北急延伸は大阪都心にダイレクトアクセス、まちが大きく変わってきています。ますます、今後は楽しみです。文化芸能劇場では、ステージ上や楽屋などの関係者以外立ち入りができないエリアまで案内いただき、このような体験ができました。見学会の実施に当たっては、箕面市地域創造部の眞野担当部長、野澤担当副部長、北急まちづくり推進室の疋田室長、林さん、箕面市立文化芸能劇場運営事業者のキョードーファクトリーさん、皆様のご協力のおかげで実施することができました。改めて感謝を申し上げます。

全日本建設技術協会 特別会員大阪府支会事務局：大阪府土曜会事務所内

会長 井上 章 副会長 中井 二郎 若菜 邦雄

事務局員 川上 隆 窪田 誠 柴崎 啓二 高階 宏 高田 三郎 長谷川 明巧 濱澤 哲也 堀田 憲一

会員各位のご協力を得て引き続き本会の円滑な運営に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。